

技術ノート

(No.55)

東京の古墳

一般社団法人 東京都地質調査業協会

〒 101-0047 東京都千代田区内神田 2-6-8 TEL (03)3252-2963 FAX (03)3252-2971 ホームページアドレス http://www.tokyo-geo.or.jp/

目 次

技術ノートNo.55「東	【兄の百項」
--------------	--------

マシエロ	1 1 —	+	_		-
発刊	11	4	7-	-	- (
יו סכ	1 4 –	נאט	/_	ノ	_

1. はじぬ)に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	⋯ 1
1 — 1	古墳の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·· 1
1 – 2	古墳の埋葬施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1 – 3	古墳の国内分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2. 古墳と	:地形·····	4
3. 古墳の)紹介	
3 - 1	田園調布古墳群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
3 - 2	芝丸山古墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
3 - 3	野毛大塚古墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
3 - 4	摺鉢山古墳 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	27
3 – 5	富士神社古墳 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	30
4. おわり	」に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
参考文献		37
技術ノート	· のあゆみ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	40

発刊にあたって

みなさん、こんにちは。

令和も5年目を迎え依然として続くコロナ禍ではありますが、少しずつ以前のような日常に近い生活・社会活動が戻ってきているように感じます。報道によりますと、現在国民の4人に1人が感染している現状にあるようです。これからは、恐れるだけでなく理解して知り適切に対応することが求められ、まさに「ウィズコロナ」の時代になったと感じております。私たち「一般社団法人東京都地質調査業協会」も、コロナ禍で中止や規模を縮小していた事業を再開いたしました。都民の皆様の安全・安心に寄り添ったわかりやすい地形・地質情報を発信し、地質調査の更なる普及啓発活動を行ってまいります。

さて、今般当協会の発行する技術ノートNo.55「東京の古墳」が出来上がり、ここにお届けすることになりました。昭和62年の創刊以来東京都全域に対し地質・土質・地形等々さまざまな話題を取りあげ、一般の方にも「わかりやすい解説書」となるよう作成されてきました。

今回取り上げるのは「東京の古墳」です。時代背景は今から1300~1600年前頃の古墳時代となりますが、多くの方が「東京の遺跡は聞くけど古墳はあまり知らない」と思われるのではないでしょうか。実は都内には800箇所を超える古墳が実在し、公園や緑地として整備され公開されています。あまりにも身近にありすぎて、見過ごされているようにさえ感じられます。古墳は当時の権力者の象徴とされるもので、見晴らしの良い高台に作られています。地形的には集落に接する台地の縁部近くで、地盤が安定した自然災害を受けにくい場所が選定されており、地形・地質とは密接な関係があったようです。本書を読まれた後、ぜひお近くの古墳を訪ねられ「太古の昔」に思いをはせていただきたいと存じます。

なお、本書の巻末にはこれまで発刊した全ての技術ノートのバックナンバーが記載されています。当協会のホームページよりダウンロードができますので、これも併せてご覧いただきたいと存じます。この技術ノートを手に取られた一人一人が、「東京を学び・知る」きっかけの一冊となることを祈念します。

最後になりますが、発刊に当たり忙しい日常業務の中で時間を作り、取材並びに執筆 活動をされました当協会の技術委員会の皆さんに感謝申し上げます。

令和5年1月吉日

1. はじめに

今回の技術ノート第55号は、「東京の古墳」を紹介します。技術ノートではこれまでに、「東京の遺跡」(第11号)にて幅広い時代の遺跡を紹介してきました。今回は、古墳に焦点をあて、皆様が思っている以上に身近に存在する東京の古墳を紹介します。

1-1 古墳の概要

古墳という言葉は、「古代の墳墓」を略したとされ、「墳」は、土を高く盛った墓場という意味を持っています。その名前の通り、巨大な権力者の墓として大規模な盛土による古墳が築造され、横穴(台地や丘陵の斜面に横穴を掘った墓)や消滅した古墳も含めると全国でおおよそ16万基あるとされています¹⁾。

古墳の形状は、様々なものがあり代表的なものは図1に示す「前方後円墳」や「前方後方墳」、「円墳」、「方墳」、「帆立貝形古墳」などがあります。皆様にも認知度が高い「前方後円墳」は古墳時代に多く築造され、その数は全国で7000基以上とも言われています。

古墳時代は、日本の歴史において弥生時代に続く考古学上の時期区分であり、概ね3世紀中頃から7世紀頃を指します。それまでの弥生時代は、縄文時代から始められたイネ・ムギ・アワ等の穀類の栽培が全国的に普及した時代であり、農耕に伴う定住および集団生活が根付き、収穫物の貯蔵など富の蓄積による権力を持つ者が誕生することになりました。また、耕地や水利等の利害関係による集団間の争いも激しくなり、権力の象徴とした古墳の築造も始まることになります。古墳時代は、数多くの集団が同盟や連合とした国家となり、権力の集中が加速した時代でもあり、全国で古墳が築造された時代となります。

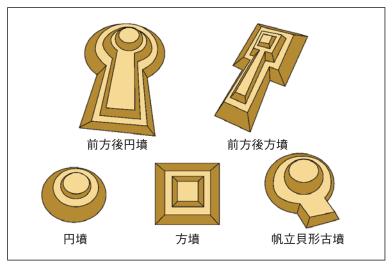


図1 主な古墳の形状

1-2 古墳の埋葬施設

古墳の埋葬施設は、遺骸を納める「棺(カン)」と棺を納める「槨(カク)」または「石室(セキシツ)」からなります。槨は、棺を石室に納めずに粘土や礫、木炭などで直接埋葬する形式です。石室は、竪穴式石室と横穴式石室の二通りがあります。竪穴式石室は、棺を覆うために周りの壁を積み石で造り、最後に天井石を載せて密封する形式です。一方、横穴式石室は、棺を納める部屋の一か所に外部に通じる出入口の横穴を設ける形式です。横穴式石室は、追葬や合葬など数回にわたり埋葬が行われたと考えられます。これらの形式は、古墳の築造時期や地域によって変化していきます。また、同様に遺骸と共に納める副葬品も変化しました。

表1に主な棺の形式、表2に埋葬施設のおおよその変化を示します。

区分 棺形式 概要 イメージ図 ・板木や板石を組み合わせ、箱状の · 箱形木棺 箱形 空間を造った棺 ・箱形石棺 ←箱形石棺 ・世界各地で同様のものがみられる ・丸太を縦半分に割り、中を刳り抜 · 割竹形木棺 割竹形 いて空間と蓋にした棺 ・割竹形石棺 ・木材は槙や檜が用いられた 舟形木棺-・舟形木棺 ・割竹形より断面が扁平で、両端が 舟形 舟の舳先のように加工してある棺 ・舟形石棺 ・家形石棺 ・蓋が家屋の屋根に似ている棺 ←家形石棺 ·埴輪棺 ・棺用に造られた埴輪で、形状は円 その他 ·埴輪円筒棺 筒棺などがある ・陶棺 など ・須恵質などの焼物の棺

表1 主な棺の形式

表2 埋葬施設のおおよその変化

時期	棺形式	槨・石室形式	主な副葬品
古墳時代前期	・木棺	・槨 ・竪穴式石室	・銅鏡・武器(剣など)・装飾品(勾玉など)・鉄製品(農具など)
古墳時代中期	・木棺 ・石棺	・槨 ・竪穴式石室 ・九州北部では横穴式石室 が広まる	・銅鏡・武器 (剣など)・馬具・装飾品 (勾玉など)・鉄製品 (農具など)
古墳時代後期	・木棺・石棺	・槨 ・横穴式石室	・武器 (剣など) ・馬具 ・装飾品 (勾玉など)

1-3 古墳の国内分布

表3に都道府県ごとの古墳・横穴の総数を示します。この表にある通り、東京都の古墳・横穴の総数は814基とされ、すべて現存しているものです。東京都の古墳・横穴は、生活基盤となった河川や旧河川沿線に多く存在し、多摩川や隅田川、荒川、利根川などが該当します。また、5000基以上確認されている都道府県は、総数の多さ順に「兵庫:18707基」、「鳥取:13505基」、「京都:13103基」、「千葉:12772基」、「岡山:11880基」、「広島:11334基」、「福岡:10759基」、「奈良:9663基」、「三重:7128基」、「岐阜:5218基」となります。近畿地方に古墳が多く見られることは、当時のヤマト王権(政権)に起因するもので、九州地方を含め多くの周辺地域を治めていく中で、古墳・横穴も多く築造されたと考えられています。これら古墳のうち主要なものは、劣化原因となる植生の除去や形状維持のための整備として、公園や緑地として保存されており私たちの身近に存在します。次章以降にて東京都に存在する古墳のいくつかを紹介します。

表3 都道府県ごとの古墳・横穴の総数(令和4年3月時点)1)

	総数	現存	消滅
北海道	0	0	0
青 森	0	0	0
岩 手	67	65	2
宮城	510	508	2
秋 田	0	0	0
山 形	141	141	0
福島	1,050	938	112
茨 城	1,840	1,620	220
栃 木	1,146	1,146	0
群馬	3,504	3,504	0
埼 玉	3,114	_	_
千 葉	12,772	10,495	2,277
東京	814	814	0
神奈川	1,117	1,117	0
新 潟	635	632	3
富山	232	220	12
石 川	2,107	2,012	95
福井	544	526	18
山 梨	652	575	77
長 野	2,670	2,138	532
岐 阜	5,218	4,043	1,175
静岡	3,837	3,686	151
愛 知	3,104	1,834	1,270
三 重	7,128	6,082	1,046

	総数	現存	消滅
滋賀	871	871	0
京 都	13,103	11,643	1,460
大 阪	3,428	3,118	310
兵 庫	18,707	17,472	1,235
奈 良	9,663	8,657	1,006
和歌山	1,666	1,522	144
鳥 取	13,505	12,549	956
島根	2,710	2,340	370
岡 山	11,880	11,050	830
広 島	11,334	10,173	1,161
山口	541	484	57
徳島	1,077	971	106
香川	2,252	2,014	238
愛 媛	1,185	1,078	107
高 知	229	174	55
福岡	10,759	7,931	2,828
佐 賀	601	567	34
長 崎	471	456	15
熊 本	1,375	1,323	52
大 分	905	778	127
宮崎	834	692	142
鹿児島	515	513	2
沖 縄	2	2	0

総数		現存	消滅
合 計	159,815	138,474	18,227

2. 古墳と地形

古墳は、今から1700年ほど前、3世紀の終わりから7世紀にかけて盛んに作られました。 作られた理由には諸説ありますが、その地域を支配していた王や豪族が自らの力を示す為 に墓として作らせたと考えられています。

古墳が作られる際には、現代の建築分野と似た手順で設計と施工が行われていたようです。まず最初に、古墳を建設する場所を選定する事から始まりますが、この場所選びが重要でした。選定する場所は、現代のように地盤を改良して強固にする工法が無い時代でしたので、自然の状態で巨大な古墳を支える事が出来る強固な地盤が選ばれていたようです。場所が決まると、設計された古墳の形状通りに周囲から掘っていきますが、機械が無い時代でしたので人力作業で掘りますので、掘り易い土の場所を選ぶ必要がありました。このように、古墳と地盤には現代と同じように深い関係があった事が分かります。

東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス(東京都教育委員会)には、都内に存在する古墳が掲載されています。様々な条件で検索する事が出来ますが、このうち代表的な古墳を取り上げて、古墳と地形の関係について紹介します。

調べてみると、古墳が立地する地形区分は標高が高い台地及び山地斜面が多く、さらに台地及び山地斜面の中でも先端部で河川や海に近い部分に築造されている事が分かりました。これは、古墳が作られた時の文化的背景と物理的背景が理由と考えられています。文化的背景は、古墳は集落の王や豪族の墓ですので、人が多い地域に作られ、古墳築造の目的が支配地を見下ろす高台に築く事で被葬者の富と権力を誇示する事が出来ました。物理的背景は、古墳を築造する際には多くの材料と人手が必要でした。材料は石や木材等でしたので、河川や山に近い場所が調達に優先的に選ばれ、古墳時代は河川流域を中心に集落が発達していた為、人手も確保し易かった為だと考えられます。

表 4 東京都の古墳(抜粋)

名称	所在地	地形区分
蓬莱山古墳	大田区田園調布四丁目	台地・山地斜面
多摩川台古墳群	大田区田園調布一丁目	台地・山地斜面
亀甲山古墳	大田区田園調布一丁目	台地・山地斜面
芝丸山古墳	港区芝公園四丁目	台地
野毛大塚古墳	世田谷区野毛一丁目	台地
摺鉢山古墳	台東区上野公園5丁目	台地
富士神社古墳	文京区本駒込5丁目	台地

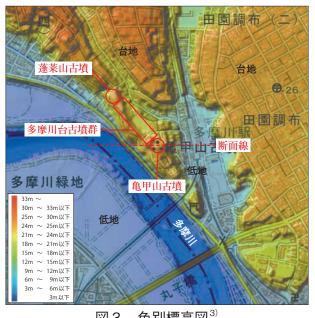


図2 東京都の地形区分図と古墳の位置関係2)

以下に、東京都にある古墳のうち、代表的なものを地形との関係でいくつか紹介します。 いずれの古墳も台地または山地斜面に位置し、周囲は低地に囲まれて古墳周辺は標高が高 い事が分かります。

(1)蓬莱山古墳、多摩川台古墳群、亀甲山古墳

これら3つの古墳は、いずれも大田区田園調布一丁目の多摩川台公園内に立地します。 古墳は台地及び山地斜面に位置し、西側は多摩川流域の低地で、古墳が立地する台地との 高低差は約30mです。東側は台地を開析した谷底低地で、高低差は約20mです。



色別標高図3) 図3

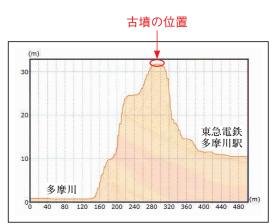
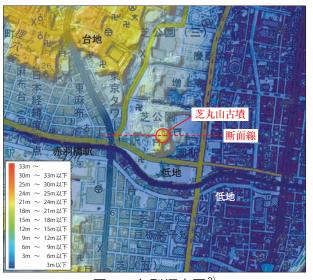
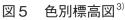


図4 東西断面図3)

(2) 芝丸山古墳

芝丸山古墳は、港区芝公園四丁目の芝公園内に立地します。古墳は台地に位置し、北側を除く三方向は低地で、古墳が立地する台地との高低差は約15mです。





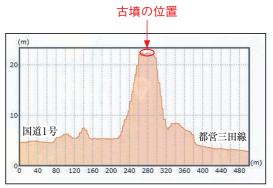


図6 東西断面図3)

(3) 野毛大塚古墳

野毛大塚古墳は、世田谷区野毛一丁目の玉川野毛町公園内に立地します。古墳は台地に位置し、南西側は多摩川流域の低地で、古墳が立地する台地との高低差は約20mです。

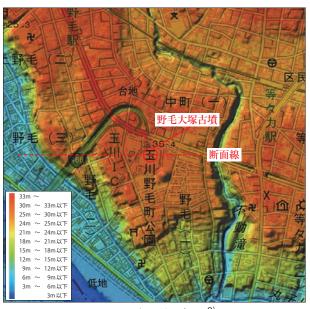


図7 色別標高図3)

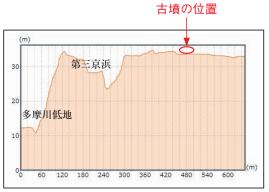


図8 東西断面図3)

(4) 摺鉢山古墳

摺鉢山古墳は、台東区上野公園五丁目の上野恩賜公園内に立地します。古墳は台地に位置し、東西は低地で、古墳が立地する台地との高低差は約10m~15mです。南側は台地の 先端部で高低差はほとんどありません。

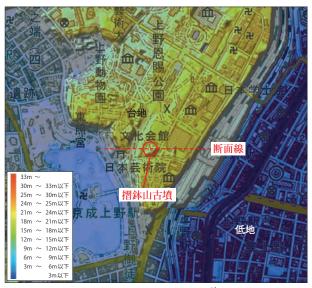


図9 色別標高図3)

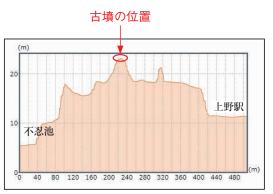


図10 東西断面図3)

(5) 富士神社古墳

富士神社古墳は、文京区本駒込五丁目の駒込富士神社内に立地します。古墳は台地に位置し、四方も台地ですが古墳を含む駒込富士神社付近だけ標高が約5m高くなっています。

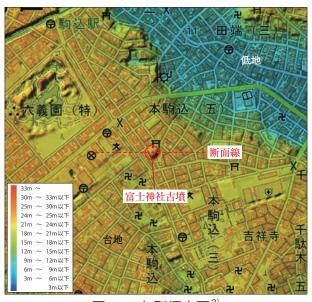


図11 色別標高図3)



図12 東西断面図3)

3. 古墳の紹介

3-1 田園調布古墳群

田園調布古墳群は、多摩川下流の大田区田園調布に広がる古墳群で、大小様々な古墳が存在しています。この地域には、多摩川沿いに当時の人々の集落が存在し、ヤマト政権(4世紀~7世紀半ば頃)を後ろ盾にした強力な首長が部族を形成していたと考えられています。ここでは田園調布古墳群のうち、主な古墳として亀甲山古墳、多摩川台古墳群、宝莱山古墳の3つを取り上げたいと思います。



図13 田園調布古墳群周辺の土地条件図4)





写真1 東急東横線上から多摩川崖線を望む

下図に東京の主要古墳の年代を示しました。亀甲山古墳と宝菜山古墳は、古墳時代の前期に建造されています。一方、多摩川台古墳群は、古墳時代中期~後期に建造されています。

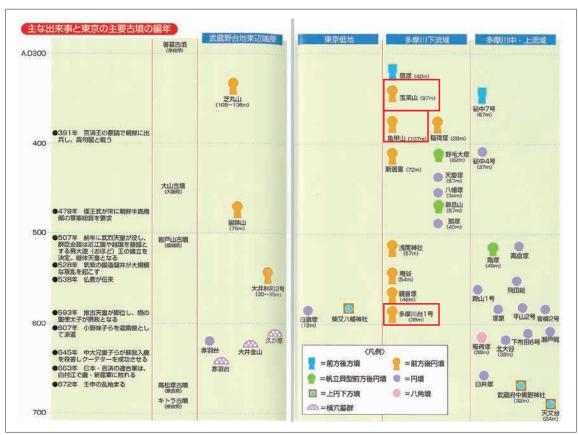


図14 東京の主要古墳の編年5)

(1) 亀甲山古墳

古墳時代、4世紀後半

所在地 田園調布一丁目、多摩川台公園内

墳形が亀の姿に似た山に見えたため、古くから亀塚、亀塚山、亀ノ甲山、亀山などとも呼ばれてきました。カメノコを亀甲と漢字で表記するため「きっこうさん (やま)」と呼ばれることもあります。後に紹介する宝莱山古墳とは小さな谷を隔てて向き合い、多摩川を南に見下ろす台地上に位置しています。後年、両古墳の間に多摩川台古墳群が築造されました。

墳丘築造企画の復元により、全長 107.25mの大前方後円墳であることが 確認されました。東京都に残存する古 墳としては最大規模のものです。墳丘 は後円部南端が削られている他はほぼ 原形を保っています。

1928年(昭和3年)に国指定の史跡となり、内部の調査はまだされてい

表5 亀甲山古墳の概要6)

所在地	大田区田園調布1-63 多摩川台公園内		
別名	亀塚、亀塚山、亀ノ甲山、 亀山、西岡第46号古墳		
時期	4世紀後半		
墳形	前方後円墳		
規模	全長 107.25 m 前方部 幅 49.5 m・高さ約 7.5 m 後円部 径 66 m・高さ約 10 m		

ません。出土遺物もなく、正確な築造時期は不明です。しかし、(1) 宝莱山古墳と向き合う位置で、同じ台地上にあること、(2) 前方部先端の幅が広がらず、前方部の広がりは宝莱山古墳よりも大きいこと、(3) 葺石や埴輪を持たないこと、といった点から、宝莱山古墳の次の世代の首長墓ではないかと考えられています。

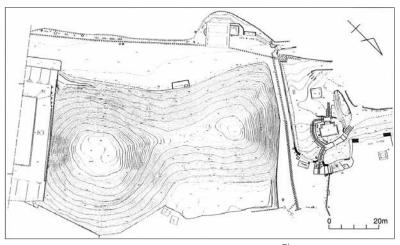


図15 亀甲山古墳の実測図7)



写真2 亀甲山古墳全景⁸⁾/ 上空から見ると前方後円墳の形をしていることが分かります。



写真3 付近の緑道から望む



写真4 付近の緑道から望む



写真5 南側から望む/木々に覆われており全体像は分かりにくい状態です。

(2) 多摩川台古墳群

古墳時代、6世紀第2四半期以前~7世紀中頃 所在地 田園調布一丁目·四丁目、多摩川台公園内

多摩川台古墳群は、宝莱山古墳と亀甲山古墳に挟まれるように、多摩川を望む台地縁辺 に位置している8つの古墳を指します。



写真6 多摩川台公園群の案内図

円墳状の墳丘が9つ並んでいるように見えるため、亀甲山古墳側から順に、第1号墳から第9号墳まで番号が付けられていました。しかし、昭和62年(1987)以来行われた多摩川台古墳群の確認調査では、第1号墳と第2号墳は2つ合わせて一つの前方後円墳であること、当初8号墳と考えられていたものは古墳ではないことが確認されるなど、この古墳群の性格解明に役立つ多くの成果があげられました。

田園調布古墳群では、宝莱山古墳以来、代々の首長墓(古墳)が築造されてきました。さらに、首長を中心とする政治的集団の内部では、農耕だけでなく、土器・埴輪・武器・武具・装身具等の生産に携わる職業の専門分業化が行われ、その結果、各々の生産体制の長がそれぞれの古墳の築造することが可能になってきました。 しかし、これらの専門分業化した長達には、大形古墳を造るだけの力が備わっているわけではないため、小形の古墳(円墳)が量産されることになりました。このような社会状況のもとで、一地域に集中して築造された古墳群を「群集墳」と呼んでいますが、多摩川台古墳群もこれに相当すると考えられています。

表6 多摩川台古墳群の概要9)

古墳名	所在地	時期	墳形	規模
第1+第2号墳		6世紀第3四半期後半	前方後 円墳	全長39 m 前方部 幅17 m 後円部 幅19.5 m 高さ5 m
第3号墳	大田区	6世紀末7世紀初	円墳	径13~14m, 高さ3m
第4号墳	田園調布 1-63 多摩川台	7世紀第1四半期	円墳	径18m, 高さ3m
第5号墳		6世紀末~7世紀初	円墳	径 20.1 m, 高さ 3.25 m
第6号墳	公園内	7世紀第1四半期	円墳	径19.5m, 高さ2.8m
第7号墳		7世紀第2四半期	円墳	径18m, 高さ3m
第8号墳 (旧第9号墳)		7世紀中頃	円墳	径16.5m, 高さ2.5m

この古墳群は、次のような築造順序で形成されたと考えられています。まず、6世紀第2四半期以前に第2号墳(墳形不明)が造られますが、すぐ隣に第1号墳が造られ、第1号墳と2号墳を合わせた前方後円墳が築造されます。その後、第3号墳と第5号墳が同時期に並行して造られ、これらに第4号墳と第6号墳が続き、さらに第7号墳が造られます。そして、7世紀中頃、最後の第8号墳が築造されたのです。これは、田園調布古墳群形成の最終末期に当たります。

田園調布古墳群の埋葬施設としては、竪穴式石室と、横穴式石室があります。

竪穴式石室は、木棺または石棺を設置した後に、棺の周囲に積み石を行い、最後に天井石を載せて密封する形式の埋葬施設です。石室の底部には礫床が敷かれています。主に前期の古墳に盛んに用いられました。

一方、横穴式石室は、あらかじめ積み石により 遺体を埋葬する部屋を作り、部屋の一ヶ所に外部 に通じる出入口を設けておきます。出入口を開閉 することにより、追葬や合葬等、数回にわたり埋 葬を行うことができるようになっています。主に 6~7世紀ごろ盛んに作られました。同族の子孫 を追葬していたと考えられ、「血縁」というものが 重要視されるようになったためだと思われます。

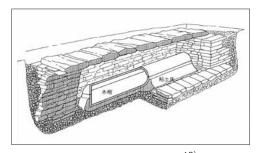


図16 竪穴式石室10)

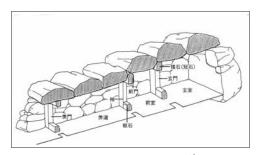


図17 横穴式石室11)

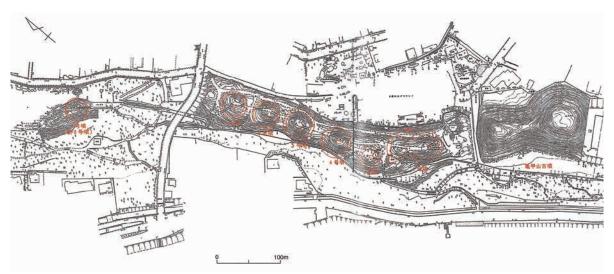


図18 多摩川台古墳群の実測図12)



写真7 第1号墳



写真8 第2号墳



写真 9 第2号墳竪穴式礫槨出土状況¹³⁾/被葬者と木棺は朽ち果て、礫槨だけが残っています。



写真10 第5号墳(手前)と第6号墳(奥)/ 付近には緑道が整備されています



写真11 第5号墳

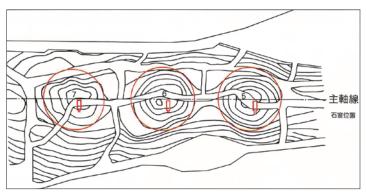


図19 第5~7号墳の横穴墓の位置14)

第5号墳から第7号墳は、横穴式石室が同一方向に並んで作られています。このことから、第5~7号墳は計画的に造成されたことが伺えます。なお、第5号墳の横穴式石室がある場所を外部から観察しましたが、周辺からは見えないようになっていました。

(3) 宝莱山古墳

古墳時代、4世紀前半 所在地 田園調布四丁目4番

西岡第37号古墳、蓬莱塚、将軍塚とも呼ばれます。南に多摩川を見下ろす台地の端に位置しています。後円部が破壊され、原形を留めないため正確な規模は不明ですが、平成7年(1995)東京都指定旧跡宝来山古墳調査会の発掘調査により、全長97mという規模であることが確認されました。亀甲山古墳と並ぶ、多摩川流域最大の前方後円墳で、前方部は最古の形態とされる三味線の撥(ばち)形をしています。

昭和9年(1934)、宅地造成工事のため後円部が破壊された際、細合公一・西岡秀雄両氏等により埋葬施設の粘土槨が発見・調査され、多くの副葬品が出土しています。出土品の中に、倣製四獣鏡、紡錘車形石製品、その他勾玉・大刀等があり、三種の神器と呼ばれる宝器(鏡・玉・剣)が副葬されていることから、ヤマト政権と深いつながりがあったことが伺えます。

宝莱山古墳は、多摩川下流域における最古の古墳で、南武蔵でも後の荏原郡に当たる地域を治めた首長の墓ではないかと考えられています。多摩川を挟んで位置する日吉・加瀬古墳群(川崎市・横浜市)の白山古墳も同時期の古墳であり、当時の首長の勢力圏が想定できます。

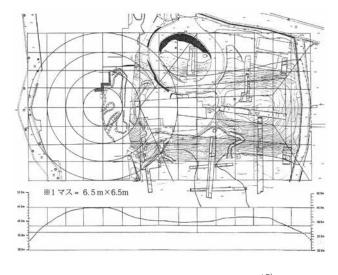


図20 宝莱山古墳の墳丘企画 15)

表7 宝莱山古墳の概要16)

所在地	大田区田園調布 4-4		
別名	蓬莱塚、将軍塚、 西岡第37号古墳		
時期	4世紀前半		
墳形	前方後円墳		
規模	全長97 m 前方部 幅37 m・高さ約8 m 後円部 径52 m・高さ約11 m		



写真12 宝莱山古墳を西側から望む



写真13 宝莱山古墳の案内図



写真14 宝莱山古墳の墳丘入口

宝莱山古墳の上は緑道になっており、古墳の上を実際に歩くことが可能です。古墳は林で覆われているため全体像は分かりにくいですが、歩いていて墳丘全体の形が均一であることを感じました。



写真15 四獣鏡¹⁷⁾



写真16 紡錘車形石製品18)

(4) 武蔵国造の乱

日本書紀に記されている「武蔵国造の乱」の記事では、当時の武蔵国を中心とした争いの出来事が書かれています。内容が事実であるかは明らかになっていませんが、この出来事と古墳の築造を関連付ける説があり、以下にご紹介します。

1. 「武蔵国造の乱」の物語

(1) 小杵と使主の対立

ヤマト政権は、日本各地の豪族達を「国造」(部族の首長)として認定し、同盟関係をむすぶことで勢力を拡大させていました。安閑天皇元年(西暦534年)、6世紀初め頃のことです。武蔵国では、次の首長の座をめぐり、南武蔵の小杵と、北武蔵の使主の対立が起きました。



(2) 同盟を結ぶ小杵と小熊

ずるがしこく高慢な小杵は、東の大国である上毛野国との関係を強めていました。そして、ひそかに上毛野国の小熊に援助を求め、使主を殺害しようともくろみました。

(3) 使主、大和政権に助けを求める

しかし、これに気付いた使主は、自らヤマト政権の朝廷に出向き、助けを願い出ました。 こうして、たんなる武蔵国の内紛から、ヤマト政権と東国の強国上毛野国との対立という 大事件へと発展することとなりました。

(4) 使主の勝利と屯倉の献上

東国への影響力を強めたいと考えていたヤマト政権は、これを好機と思い、 使主と結託して小杵を討ち倒し、使主 を国造としました。

これを喜んだ使主は、四ヵ所を屯倉 (直轄地)としてヤマト政権に献上、 小杵の勢力に大きな打撃を与えました。



図21 武蔵国造の乱 勢力図19)

2. 古墳への影響

武蔵国造の乱の出来事を踏まえた上で田園調布古墳群における各時期の変化を見ると、 次のようにも理解されます。

① [ヤマト政権と強力な関係をむすぶ]

古墳発生期では、田園調布古墳群に亀甲山古墳等の前方後円墳が築造されました。これらの古墳の副葬品の中には鏡等があることから、ヤマト政権の影響が考えられます。古墳時代初めの首長たちは、ヤマト政権をバックに強大な権力をつけていったことが想像されます。

② [ヤマト政権から離れ、上毛野国との関係を深める]

5世紀になると、首長勢力は世田谷区にある野毛古墳群側に移り、墳形を大形の円墳に変えます。 これは前方後円墳に象徴されるヤマト政権との決別の意味があったとも考えられます。これまでなかった葺石も施されるようになりますが、上毛野国の古墳を真似たものなのかも知れません。

③〔争いに敗北し、首長の影響力が大きく低下する〕

6世紀は関東の各地で大型古墳が作られる時期になりますが、東京では大型古墳が作られなくなります。また、上毛野国でも武蔵国造の乱の事件以降は巨大古墳が見られなくなりました。使主とヤマト政権によって小杵が打ち倒され、小杵の支配力が低下したことが伺えます。

④ [ヤマト政権による支配が強まる]

浅間神社古墳以来、再び田園調布古墳群に前方後円墳が築造されるようになります。それは、墳形が象徴するように、ヤマト政権との関係が戻ってきたことを示すものです。しかし、小杵が打ち倒され、以前とは異なる強い圧力の元で支配される状況が生まれたと想像されます。古墳が小規模になることがそれを現しています。

こうしてみますと、田園調布古墳群の代々の首長達は、ヤマト政権との関係性に苦慮し ながら部族をおさめてきたように思われます。

3-2 芝丸山古墳

芝丸山古墳は、標高約2~4mほどの低地内に標高約16mの小丘としてに存在しています。

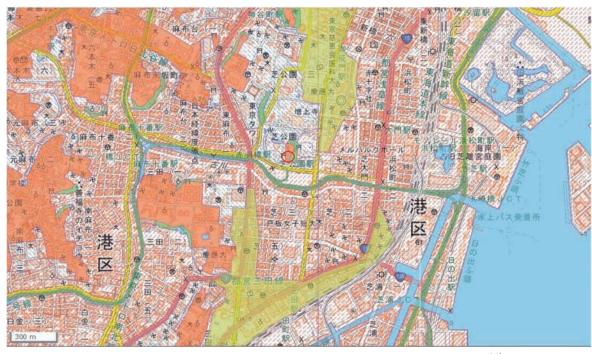


図22 芝丸山古墳周辺の土地利用図(○が芝丸山古墳の位置)20)

本古墳は、港区の遺跡番号24番として登録されています。東京都教育庁地域教育支援部の港区遺跡一覧では、全長125m後円部の高さが9mで前方部の高さが7mの前方後円墳とみなされています(表8参照)、前方を南南西に向けた前方後円墳になります。墳丘長は125mで、東京都内の古墳の中では最大級のものとなります。

表8 芝丸山古墳要21)

区市 町村	遺跡 番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	時代	地図
港区	24	丸山 古墳	芝公園四丁目	台地縁辺 古墳(前方後円墳) 全長125 m 後円部径70 m 高9 m 前方部幅35 m 高7 m 都史-芝丸山古墳(昭54.3.31)	[古]	39R

表 9 芝丸山古墳概要3)

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	主な構造/概要
24	丸山古墳	港区芝公園四丁目	古墳	[古墳時代]	前方後円墳

1898年(明治31年)に、当時の東京府知事の依頼で自然人類学者の坪井正五郎によって、発掘調査が行われ、埴輪や須恵器などの出土品が確認されました。しかし、後円部が江戸時代初期に、増上寺五重塔建立の際に削られてしまっていたため。埋葬施設は確認できませんでした。また、出土品も周辺の小円墳由来の可能性もあり、芝丸山古墳由来のものとは断定できていません。ただ、小高い墳丘が、明らかに大規模な前方後円墳の形状を持っていること(図23参照)や、かつての海岸線に存在していることを鑑みると、当時の権力者が埋葬された古墳であることは、ほぼ間違いないと推定されています。

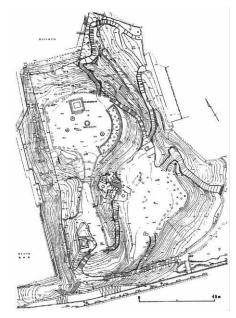


図23 芝丸山古墳の測量図23)

都立芝公園の一角に、小高い墳丘として存在する本古墳は、木々がうっそうと茂り、森のような様相を呈しています。



写真17 墳丘登り口付近



写真18 古墳前方部

明治時代においても、市民の憩いの場となっていたようで、明治30年7月に発行された「新撰 東京名所図会(第七編)」でも、墳丘部に数軒の茶店と人々が楽しむ様子が描かれています(図24参照)



図24 芝公園丸山の図²⁴⁾

現在、都立芝公園の一部として整備された本古墳は、後円部に伊能忠敬の功績をたたえる石碑が設けられています。また、中腹には、芝東照宮が鎮座しています。



写真19 伊能忠敬の功績を讃える石碑



写真20 芝東照宮

なお、芝丸山公園近隣には、観光名所として、日本電波塔(通称、東京タワー。以降は東京タワーと記載)や増上寺があります。東京タワーは、1958年(昭和33年)に竣工した総合電波塔で。高さは333m、東京スカイツリーに次ぐ東京のシンボルと言えます(写真21)。

一方、増上寺は、山号が三縁山で。正式には三縁山広度院増上寺と称します。徳川 家の菩提寺になります (写真22)。



写真21 東京タワー



写真22 増上寺

3-3 野毛大塚古墳

野毛大塚古墳は、標高約30mの武蔵野台地上に存在しています。

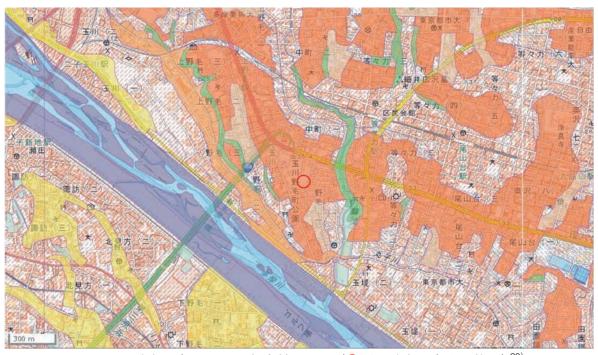


図25 野毛大塚古墳周辺の土地利用図図(○が野毛大塚古墳の位置)²⁹⁾

本古墳は、世田谷区の遺跡番号127番として登録されています。東京都教育庁地域教育支援部の世田谷区遺跡一覧では、全長82m高さが11mの帆立貝式の前方後円墳とみなされています(表10,表11参照)。

区市 町村	遺跡 番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	時代	地図
世田谷区	127	野毛大塚古墳 (西岡8号墳)	野毛1丁目	台地 古墳(前方後円墳 帆立貝式)径82×68 m 高11 m 周濠104 m 幅13 m	[古]	75R

表10 野毛大塚古墳概要30)

表11 野毛大塚古墳概要31)

[古]石棺 木棺 粘土槨 都 史-野毛大塚古墳 (昭50.2.6)

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	主な構造/概要
127	野毛大塚(西岡 8号墳) 古墳	世田谷区野毛一丁目	古墳	[古墳時代]	前方後円墳 帆立貝 式[古墳時代]石棺 木棺 粘土槨

本古墳は、周囲を周濠が馬蹄形にめぐらされています。また、前方部の脇には、造出部と呼ばれる方形の区画が残されています。古墳上には、朝顔形円筒埴輪と普通円筒埴輪が平坦面に配列されていました。また、造出部は、柵形埴輪がありました。このほか、埴輪には、鶏、水鳥、家、壺などの種類のものもありました。なお、古墳全体は、多摩川の自然石を利用した茸石に覆われていました。



写真23 配列されていた埴輪³²⁾ 右から柵形埴輪、朝顔形 円筒埴輪、普通円筒埴輪

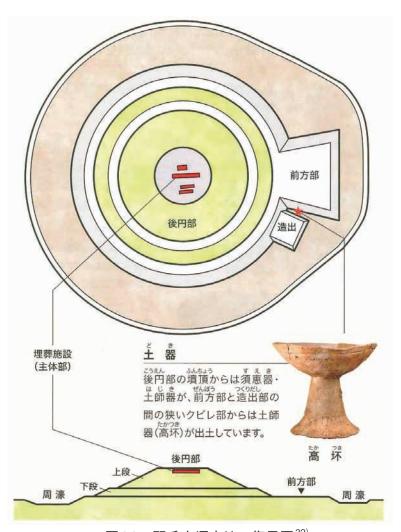


図26 野毛大塚古墳の復元図32)

1897年(明治30年)に発掘調査がおこなわれ、後円部の墳丘から石棺が見つかりました。 そして、この調査で見つかった様々な多くの副葬品は、帝国博物館(後の東京国立博物館) に収蔵されました。これらの副葬品は、銅鏡、玉類、甲冑、鉄製武器、漆製品、銅釧、鉄 製模造品が出土しており、これらは、国の重要文化財に指定されています。これらの副葬品から、古墳の被葬者は、畿内の大王と直接的な政治関係を持つ南武蔵(現在の川崎市や横浜市の一部)を支配する人物であったと考えられています。

現在、野毛大塚古墳は、玉川野毛公園の一部として整備され、野球場やテニスコートなどがある市民の憩いの場となっています。



写真24 古墳全景



写真25 墳丘(後円部)頂部

なお、本古墳近隣には、等々力渓谷があります。渓谷内には、不動の瀧といった名 所があり、玉川野毛公園と同じく、市民の憩いの場となっています。



写真26 等々力渓谷



写真27 不動の瀧

3-4 摺鉢山古墳

図27は、摺鉢山古墳周辺の土地利用図です。摺鉢山古墳は、武蔵野台地の突端である上野台に位置しています。この台地はほぼ北から南へ延び、その西側には不忍池があります。 摺鉢山古墳は上野恩賜公園内に位置しており、すぐ横に正岡子規記念球場があります。

余談ではありますが、上野恩賜公園の東側に電車(山手線,正確には東北本線)が走っています。電車に乗って外を眺めると西側の地表面は高くなっていて、台地の縁に線路を敷いたことが確認できます。ただし、上野駅より南側では、線路は台地から離れ低地に敷設されました。上野~新橋間は難工事となり、開通が遅くなったとのことです(詳しくは技術ノートのバックナンバー No.15、No.53をご確認下さい)。



図27 摺鉢山古墳周辺の土地利用図 (○が摺鉢山古墳の位置) 34)

摺鉢山の由来は、その形状が摺鉢を伏せた姿に似ているところから名付けられました。ここから弥生式土器、埴輪の破片などが出土しており、約1500年前の古墳と考えられています。人類学者、考古学者である鳥居龍蔵は、同じく埴輪を伴う芝丸山古墳と「時代が同じ」と推定しています(台東区史 p.67)。

本古墳は、前方部を西に向ける前方後円墳と考えられています。古墳の規模は、現存長70m、後円部径43m、前方部幅は最大部で23m、後円部の道路との比高は5mです。

墳丘上には、五條天神や清水観音堂がありました。五條天神の創立年代は不明ですが、

堯恵法師は「北国紀行」のなかで、文明19年(1487)に忍岡に鎮座する五條天神を訪れた際に、「契りきて たれかは春の 初草に 忍びの岡の 露の下萌」とうたっています。なお現在、五條天神は上野公園忍坂脇に鎮座しています。一方、清水観音堂は、寛永8年(1631)寛永寺の開祖天海僧正により建立されましたが、元禄年間(1688~1703)初めごろ寛永寺根本中堂建立のため現在地に移転しました。後円部には、これらの名残とみられる石垣の一部やそれに使われた石が散在しています。現在、丘上は休憩所となっています。

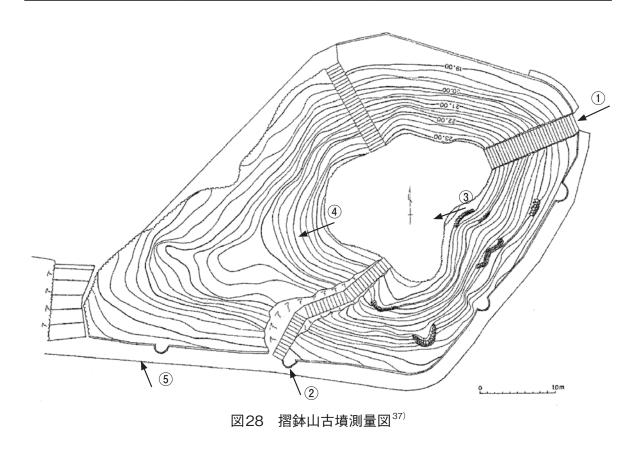
摺鉢山古墳は台東区の遺跡番号3番として登録されています。

表12 摺鉢山古墳概要(遺跡一覧より抜粋)35)

区市 町村	遺跡 番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	時代	地図
台東区	3	摺鉢山 古墳	上野公園 5番付近	台地 古墳(前方後円墳) 全長70 m 後円部径43 m 3,010㎡ 近世瓦溜 土杭	[古] [近]	28L

表13 摺鉢山古墳概要(東京都遺跡地図情報インターネット提供サービスより)36)

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	主な構造/概要
3	摺鉢山古墳	台東区 上野公園	古墳	[古墳時代]	前方後円墳 近世瓦 溜 土杭



台東区史 通史編Iには、寛永寺造営時の上野台の改変についての記述があります。抜粋引用します。

『徳川家光によって寛永 2 年(1625)に、東叡山寛永寺が造営された結果、台地上が全面的に削平されて堂塔が建立され、往時の景観が一挙に失われた』p.63

『寛永寺の造営により上野台は一変したが、その工事にともなって多くの古墳が削平されたと推察される。』p.64(台東区史 通史編 I 発行:東京都台東区 平成9年6月30日発行)現在の上野公園は比較的平坦ですが、かつては凹凸としていたのでしょう。



① 東側にある後円部への石段



② 南側の石段



③ 後円部(平坦,休憩所として整備)



④ 後円部端から前方部の落差



⑤ 南側、前方部の様子

写真28 摺鉢山古墳

3-5 富士神社古墳

文京区の地形は台地と谷底低地からなっており、富士神社古墳は標高25m以下の非常に平坦な台地の東縁部に位置しています。周辺の標高は24m、富士神社古墳は周辺より5.5m程度高くなっています。富士神社古墳の比較的近隣に六義園があります。図29に周辺の土地利用図を示します。富士神社古墳は台地に位置しているものの、南側には浅い谷が接近し、東側には切土地と盛土地が広がっています。平坦にするために土地改変された様子が想像できます。なお、良好な位置にという考えからでしょうか、低地の微高地上に東北新幹線が建設されています。



図29 富士神社古墳周辺の土地利用図 (へが富士神社古墳の位置) 38)

富士神社古墳は文京区の遺跡番号15番として登録されています。以下に古墳の概要をまとめました。東京都教育庁地域教育支援部の文京区遺跡一覧では、全長45m高さ5.5mの前方後円墳とみなされており(表14参照)、東京都遺跡地図情報では、主な構造/概要の欄が「前方後円墳?」となっています(表15参照)。

表14 富士神社古墳概要(遺跡一覧より抜粋)39)

区市 町村	遺跡 番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	時代	地図
文京区	15	富士神 社古墳	本駒込五丁目 富士神社	台地縁辺 古墳(前方後円墳) 全長45 m 高5.5 m	[古]	36R

表15 富士神社古墳概要 (東京都遺跡地図情報インターネット提供サービスより) 40)

番号	遺跡名	所在地	種別	時代	主な構造/概要
15	富士神社古墳	文京区 本駒込五丁目	古墳	[古墳時代]	前方後円墳?

富士神社古墳は、現在古墳ではないという考えが有力のようです。これについての説明 を「文京区史 巻一」⁴¹⁾ から抜粋引用します。

『富士神社の盛土は現在高5.5メートルをかぞえるが、平面形は極めて不規則である。正面からみた外形は前方後円墳に近いものを思わせるので、鳥居氏*らもこの説をとっているが、明治年間の記録はいずれも円墳となっている、われわれは現在の平面形からみて、これを古墳と断ずる積極的な手掛かりはないと考えている。かりにこれが古墳としても浅間社を遷してから、外容はすっかり変形され、本来の面影をとどめていないとみるべきであろう。』

文京区教育委員会の方にヒアリングしたところ、未調査のため周濠/周溝**が確認されていないため古墳である可能性は不明というのが、現在の見解とのことでした。

※『それから駒込の富士前町にある富士神社に行つたが、神殿の鎮座して居る高地はこれも明らかに古墳である。此處の古墳を能く注意して見ると、寧ろ前方後圓式の瓢形を呈して居る。今境内にはこの古墳だけしか無いけれども、昔は此の周圍に陪塚として丸塚が存在して居つたものと見るべきである。恐らく後世之を取崩して仕まつたのであらう。兎に角殘つて居る古墳を見ると、相當に大きな古墳であつて、どうしてもさういふ丸塚が伴つて居つたものと見なければならぬ。』

「上代の東京と其周囲」1927, p.70, 鳥居龍蔵 国立国会図書館デジタルコレクション https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1189441/46

※※古墳の墳丘の周囲をめぐる濠(ほり)または溝を周濠(しゅうごう)と呼びます。一般的 に大きなものを周濠、小さなものを周溝と呼び分けています。 図30は富士神社のマウンド実測図です。図には、今回の取材にて撮影した写真番号と撮 影方向(数字と矢印)を書き加えました。

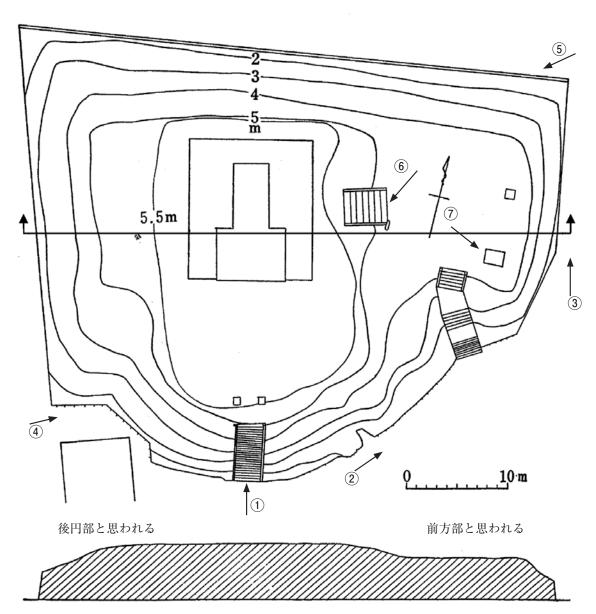


図30 駒込富士神社のマウンド実測図42)



① 富士神社正面(急な石段)



② 外周を東に回る



③ 東端から北へ回る(非常に狭い)



④ 塚が車一台分削られた様相



⑤ 北端を東から西に撮影(塚の縁端部が削られ、擁壁で抑えられている)



⑥ 社殿(向かって右から撮影)



⑦ 東端にある祠(塚の上は平坦)

写真29 富士神社

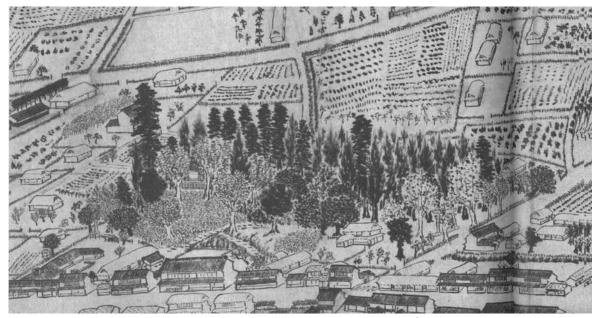


図31 安政年代の富士大権現周辺43)

富士大権現(現在の富士神社)の境内地には塚状の高まりがあり、本社の社殿がその塚上にあります。江戸時代の神社周辺の様子は図として残っています(図31参照)。古くより「駒込のお富士さん」「駒込富士」などと称され、江戸・東京の中でも富士信仰・富士講*の中心地のひとつでした440。

この神社は、旧加賀前田候の邸内(現東京大学構内)に、駿河の富士浅間を勧誘して祀られてあったものを、寛永5年(1628)にこの駒込の地に遷座したものといわれています。御祭神は木花咲耶姫命です。

富士神社のいわれについて、文京区神社誌から抜粋・引用します。

『その昔、旧加賀前田候の邸宅(東京大学)に、駿河の冨士浅間を勧請して祀られてあったものを、寛永五年(1627)この駒込の地に遷座したものである。戦前社殿に延文年間(1356~61)の北朝年号のある古碑があったが、戦災のため焼失した。』

『社殿の敷地は前方後円墳の古墳であるらしく、俗に「富士塚」とも呼んでいる。正面崖には前田候と関係のある加賀鳶をはじめ、鳶職仲間の奉納による献石が多く見られる。またその間に溶岩石を積んである。これはいつのころにか富士山の麓より運んだもので、山嶽信仰がいかに盛んであったか、これによっても明らかである。』 45)

※『日本最高の標高をほこる富士山への信仰は、16世紀から17世紀にかけて、長谷川角行(かくぎょう $1541 \sim 1646$)によって独自の教えが開かれて以来、食行身禄(じきぎょうみろく $1671 \sim 1733$)や村上光清(こうせい $1682 \sim 1759$)ら行者たちの活動によって、民間に広ま

りました。享保18年(1733)に身禄が富士山で入定(にゅうじょう,無我の境地にはいること。また、高僧の死をいう。)したことをきっかけに信者が急増すると、身禄の弟子たちは独立して信仰集団である講を組織していきます。それらから分枝するようにして各地に拡大していった富士講は、「江戸八百八講、講中八万人」と言われるほどに江戸一帯で発展します。文京区域にも、護国寺に現存の富士塚を築いた山護講をはじめ、数多くの富士講が存在し、富士山への登山や拝みを定期的に行うなど、盛んに活動を行っていました。現在、区内で継続して活動を行う富士講は存在しませんが、「駒込のお富士さん」として知られる富士神社(駒込富士塚)のほか、身禄行者墓(海蔵寺・文京区指定史跡)、音羽富士塚(護国寺)、白山富士塚(白山神社)など、近世から近代にかけての富士信仰の隆盛をいまに伝える史跡や資料が多く残されています。』46)

4. おわりに

今回の技術ノート第55号は、「東京の古墳」を紹介しました。

70000年前に始まって10000年前に終了した最終氷期の終焉に伴い、19000年ほど前から地球の温暖化が始まり海水面は120m上昇(海進)しました(年速1~2cm)。海水面上昇は6500~6000年前まで続き、気温は現在より1~2℃高かったようです。特に約7000年前ころ(縄文時代に含まれる)に、現在に比べて海水面が2~3m高くなり、日本列島の各地で海水が陸地奥深くへ浸入した現象を「縄文海進」と呼ばれています。その時、旧東京湾の沿岸部は現在の栃木県域に位置していました。その温暖化もおよそ4300年前に終焉を迎え、海水面の下降(海退)が始まりました。

東京の古墳のいくつかは縄文時代から集落であった地に造られたと想像できます(古墳と同じ位置に貝塚が存在することが多い)が、海退が進む中で、より海に近い位置に集落ができ、その場所に古墳が築造されたものもあるでしょう。本書が、気候が激変した時代、気候変動により複雑な地形・地質が形成された時代を想像するきっかけとなれば幸いです。ここで、本書を振り返る以下の通りです。

第1章では、古墳の形状や埋葬施設について説明しました。また、都道府県ごとの古墳・ 横穴の総数をまとめました。東京都には、800基を超える古墳・横穴があるそうです。

第2章では、第3章で取り上げた古墳の築造された場所の地形について説明しました。 多くは台地の縁に造られています。低地との高低差が15~20mというのが特徴的です。

第3章では、代表的な古墳を7箇所選んで説明しました。そのうちの富士神社古墳は、古墳では無い可能性がありますが、周辺と比べて5mほど高い小山が突然出現する様はとても興味深いものです。大田区田園調布の古墳群は保存状況も良く、博物館展示も充実しているようです。芝丸山古墳は東京タワーの近くにあります。野毛大塚古墳は、公園として整備されていますので、散歩・散策に打って付けです。摺鉢山古墳は上野公園内にあります。公園内には見所が満載ですので、観光のついでに古墳の上に上がってみても良いと思います。

桜の咲く季節にこれらの場所を散策してみてはいかがでしょうか?

東京都地質調査業協会 webコンテンツの紹介

当協会のホームページでは、令和3年4月より土壌汚染や地下水に関する調査技術やコラムなどを掲載しています。このコンテンツは、主に地質調査業界の初級技術者や地質調査に係わりの少ない専門外の発注者に向けたものです。土壌・地下水環境調査技術に関する情報提供として、これまでの環境部会の活動紹介、相対する基本的な調査技術情報などを提供しています。ご興味がある方は、是非ご覧ください。

【トピックス/地盤や地下水の環境について学ぼう】

https://www.tokyo-geo.or.jp/topics/env.html

<参考文献>

- 1) 文化庁 HP公開参考資料「周知の埋蔵文化財包蔵地(令和4年3月)」 https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/pdf/93717701_02.pdf
- 2) 「技術ノート No.41 東京を知る」(一般社団法人 東京都地質調査業協会) https://www.tokyo-geo.or.jp/technical_note/bv/No41/index.html
- 3) 地理院地図にて自分で作る色別標高図を作成加工 http://maps.gsi.go.jp
- 4) 地理院地図にて土地条件図を作成加工 https://maps.gsi.go.jp
- 5)「東京の古墳を歩く」(大塚初重監修 2010年祥伝社発行)
- 6), 7), 8), 12), 13), 14), 17), 18) 「大昔の大田区」(平成9年 編集・発行:大田区立郷土博物館)
- 9), 10), 11), 16), 19)「大田区古墳ガイドブック」(平成4年 編集:大田区立郷土博物館 発行:大田 区都市基盤整備部地域基盤整備第一課調布地域基盤整備事務所)
- 15)「東京の古墳を探る」(松崎元樹著 2022年吉川弘文館発行)
- 20) 地理院地図にて鳥利用図を作成加工 https://maps.gsi.go.jp/#17/35.654972/139.748358/&base=std&l s=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1
- 21) 港区指定史跡一覧より抜粋 https://maps.gsi.go.jp/#17/35.654972/139.748358/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1
- 22) 東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス https://tokyo-iseki.metro.tokyo.lg.jp/
- 23) 「都心部の遺跡 貝塚・古墳・江戸 」(昭和60年東京都教育委員会発行発行)
- 24) 「新撰 東京名所図会(第七編)」、明治30年7月 東陽堂発行
- 25) Wikipedia (芝丸山古墳)
 - https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8A%9D%E4%B8%B8%E5%B1%B1%E5%8F%A4%E5%A2%B3
- 26) 港区今昔 STORY 第9回 芝丸山古墳:港区探訪:Kissポート https://www.kissport.or.jp/spot/tanbou/2002/
- 27) Wikipedia (增上寺) https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A2%97%E4%B8%8A%E5%AF%BA
- 28) Wikipedia (東京タワー)
 - https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E4%BA%AC%E3%82%BF%E3%83%AF%E3%83%BC
- 29) 地理院地図にて土地利用図にて作成加工 https://maps.gsi.go.jp/#18/35.605599/139.639144/&base=st d&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1
- 30) 世田谷区指定史跡一覧より抜粋
 - https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/iseki0/iseki/list/ruins/13112/112ruins.htm
- 31) 東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス https://tokyo-iseki.metro.tokyo.lg.jp/
- 32) 「東京都指定史跡 野毛大塚古墳」(平成3年世田谷区教育委員会発行)
- 33) Wikipedia (野毛大塚古墳) https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%8E%E6%AF%9B%E5%A4%A7 %E5%A1%9A%E5%8F%A4%E5%A2%B3
- 34) 地理院地図にて土地利用図を作成加工
 - $\label{lem:http://maps.gsi.go.jp/#15/35.715350/139.769869/&base=std&ls=std%2C0.5\%7Clcm25k_2012&blend=0\&disp=11\&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f$
- 35) 東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課
 - https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/iseki0/iseki/list/ruins/13106/106ruins.htm
- 36) 東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス
 - https://tokyo-iseki.metro.tokyo.lg.jp/map.html#main
- 37) 東京都心部遺跡分布調査報告 都心部の遺跡―貝塚・古墳・江戸―発行:東京都教育委員会 昭和60 年3月p.192
- 38) 地理院地図にて土地利用図を作成加工 http://maps.gsi.go.jp/#15/35.730645/139.754934/&base=std&ls=std%2C0.5%7Clcm25k_2012&blend=0&disp=11&vs=c0g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f0
- 39) 東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課
 - https://www.syougai.metro.tokyo.lg.jp/iseki0/iseki/list/ruins/13105/105ruins.htm
- 40) 東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス
 - https://tokyo-iseki.metro.tokyo.lg.jp/map.html#main
- 41) 文京区史 卷一 第二版 昭和56年10月31日 発行者: 文京区役所 $p.180 \sim 181$
- 42) 文京区史 巻一 第二版 昭和56年10月31日 発行者:文京区役所 p.180に加筆 43) 安政年代駒込冨士神社周辺之図及び図説 平成28年3月31日 発行者:文京区教育委員会 p.45
- 44) 安政年代駒込富士神社周辺之図及び図説 平成28年3月31日 発行者:文京区教育委員会 p.44から 引用
- 45) 文京区神社誌 昭和63年9月1日 発行所:文京区神社総代会,東京都神社庁文京区支部 p.27~28
- 46) 文京ふるさと歴史館展示「富士講関係資料」解説







海上·水上ボーリング足場の専門会社 株式会社オカダコンストラクト

〒171-0033 東京都豊島区高田2-11-1 TEL:03-3983-3467 FAX:03-3983-0729



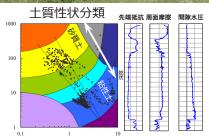




地盤調査のトータルサービス



貫入機 貫入能力最大 160 kN





CPT の特長 高度な解析が可能

- ① 軟弱地盤の土質定数が得られます。
- ② 2cm毎の連続データにより、地盤改良などの効果が確認できます。
- ③ 施工性の良さにより工期短縮が可能です。



赞 地盤試験所

〒130-0022 東京都墨田区江東橋 1-16-2 TEL 03-5600-2911 http://www.jibanshikenjo.co.jp FAX 03-5600-2952



Our mission as a Geo-Doctor

― 人と地球の未来を支えるために ―

〇鱗地盤調査事務所

www.jiban-chosa.co.jp

代表取締役社長 今野 満

社 〒191-0024 東京都日野市万願寺3-50-8 TEL.042-582-7155代) FAX.042-582-1865

東 北 事 務 所 〒962-0023 福島県須賀川市大黒町103-1 TEL.0248-76-2453代) FAX.0248-76-5014

地盤材料試験のセントラル技研

各種物理試験・化学試験・透水試験圧密試験・せん断試験・安定化試験

試験項目の一例

三軸圧縮試験(\$\phi 35~300mm)

繰返し三軸圧縮試験

中空ねじりによる液状化強度試験

土の一面せん断試験(地盤工学会仕様)

JGS 0151 土の保水性試験

JGS 0162 礫の最小密度・最大密度試験 三軸圧縮試験

JGS 0312 低透水性材料の透水試験 🧪

JGS 0412 土の定ひずみ速度載荷による

11 11

圧密試験

JGS 0527 不飽和土の三軸圧縮試験

JGS 0544 ベンダーエレメント法によ

る土のせん断波速度測定

JGS 2110 パルス透過法による岩石の

超音波速度測定

JGS 2561 岩石の多段階繰返し非排水

〒192-0063

東京都八王子市元横山町1-2-13

TEL 042-645-8276

www.centralg.net



技術ノートのあゆみ

技術ノートは 当協会技術委員会が技術情報誌として昭和62年12月に創刊号を発行して以来、令和5年2月までで第55号に達しています。

創刊号から第54号までの内容は、既刊リスト表に示すとおりです。トピックスの内容は、東京を舞台とする様々な話題の中に地形、地質との関連または基礎工学的な話を織り込みながらその歴史や現在を伝える内容となっています。各号とも写真や図にカラーをふんだんに使い、明るい紙面となっています。

技術ノートは、一般の方々に地質調査業を理解していただこうと始めた活動であります。 今後も、たくさんの方々に読んでもらえるよう、内容を充実させて地域社会に貢献していき たいと思います。

創刊号から最新号まで(一社)東京都地質調査業協会のホームページ (https://www.tokyo-geo.or.jp/) からPDFファイルで読むことができます。

■技術ノート既刊リスト表 (バックナンバー)

No. 発行年月	技術トピックス		No. 発行年月	技術トピックス
1 S. 62.12	東京都の地形区分図・地質断面図	\mathcal{I}	29 / H. 11.10/	東京のまちなみ
2 S. 63. 3	超高層ビルの地質の基礎形式		30 / H. 12. 3/	首都圏を支える鉄道網
3 S. 63. 7	江戸城なりたち、その地形・地質との関係		31 /H. 12. 9/	東京の公園
4 S. 63.10	東京湾の埋立、その歴史		32 <i>H.</i> 13. 3	東京のお酒
5 H. 1. 3	東京の川と水		33 H. 13. 9	三宅島 - 2000 年噴火と火山災害-
6 H. 1. 8	建築基礎工法の変遷、その地質との関係		34 H. 14. 3	大江戸線
7 H. 1.12	隅田川の橋、その地質と基礎形式		35 H. 14.10	東京の野菜
8 H. 2. 5	東京の地下鉄		36 H. 16. 2	東京の斜面と災害
9 H. 2.11	東京の石		37 H. 16.11	東京湾
10 H. 3. 3	新東京都庁舎		38 H. 17.11	多摩川
11 H. 3. 7	東京の遺跡		39 H. 18.11	東京の地名と地形
12 H. 3.12	東京の高速道路		40 H. 19.11	隅田川
13 H. 4. 3	東京の温泉		41 H. 20.10	社団法人化 10 周年記念誌 東京を知る
14 H. 4. 9	都内の庭園		42 H. 21.11	東京の下町
15 H. 5. 3	山手線		43 H. 22.11	東京の地下
16 H. 5.10	東京のベイエリア		44 H. 23.11	中央線
17 H. 6. 3	東京の下水道		45 H. 24.11	千代田区 /
18 H. 6. 9	東京のエネルギー		46 H. 25.11	港区
19 H. 7. 3	東京の山		47 H. 26.11	東京の天然(地中)ガス
20 H. 7. 9	東京の上水道		48 H. 28. 1	荒川 /
21 H. 8. 3	東京の低地		49 H. 29. 1	東京国際空港
22 H. 8.10	東京の運河		50 H. 30. 1	東京の超高層建物の支持層と基礎形式
23 H. 9. 3	東京のトンネル		51 H. 31. 1	東京都の津波・高潮対策
24 H. 9. 9	東京の防災		52 R. 2.2	東京都の地下水
25 H. 10. 3	東京の川神田川		53 R. 3.2	高輪ゲートウェイ駅とその周辺
26 H. 10.10	東京の台地		54 R. 4.2	石神井川
27 H. 10.12	東京の道		55 R. 5.2	東京の古墳
28 H. 11. 3	東京の水辺			/

一般社団法人 東京都 地質調査業協会

編集後記一

さて、今回の技術ノートでは、「東京の古墳」を特集しました。調べてみると東京 にも結構古墳がありますね。古墳時代は日本書紀や古事記で記述がある時代です。大 和朝廷から遠く離れた地に古墳が築造されたことに思いを馳せるのも良いでしょう。

ここで、個人的な話をいくつかします。 文献探しに図書館に向かった時のことです。 京浜東北線の東十条駅と王寺駅の間にいくつかの古墳と富士塚を見掛けました。また、 最近は愛知県に出張することが多いのですが、名古屋市の大須商店街のすぐ脇に那古 野山古墳(なごややまこふん、なごのやまこふん)と富士浅間神社を見掛けました。 街中にも古墳が残っていて、かつては富士山に見立て信仰の対象になっていたことが 興味深かったです。古墳は、案外身近なところにあるのではないかと思います。

古墳のいくつかは、公園として保存・整備されています。この本書が発行され、皆さんの手元に届く頃はまだ肌寒い時期でしょうが、暖かくなったら散策してみては如何でしょうか。これからも東京の魅力を地形や地質を中心に様々な観点から皆様に紹介していきたいと思っていますので、次回の技術ノートも是非楽しみにしていて下さい。

なお本書では、考古学や神話が関わることから取材には力を入れました。執筆にあたり、区史などの文献を調べ、教育委員会や博物館、資料館等へのヒアリングを行いました。この場をお借りして感謝申し上げます。

技術委員会(井上、渡邉、河野、糸井、澤井)